

## 日本の心

人の心の動きは、普通、「知・情・意」の三つに分けて考へられるが、このうち、特に“知”を重んずるのが西欧人であるのに対し、“情”を重んずるのが日本人である、といふ事が出来ると思ふ。日本人は「お前は馬鹿者だ」と言はれる事はさほど恥とは思はないけれども、「お前は“情”の無い人だ」と言はれる事は、この上も無い恥かしい事であると思へる。それはそのはずである。馬鹿者は明らかに人間の仲間であるが、「情の無い人」は「犬畜生に劣る」と言はれた事になるからである。

この世の生物をすべて“有情”と称して親しんで来た日本人の考へ方の正しかった事が、最近の「遺伝子」学の発達で証明されたと言つてよいのでは無いだろうか。

細胞の核の中に染色体と呼ばれる物が存在してゐて、それが遺伝に関係あるらしい事は我々の中学生の頃にも既に知られてゐた。それが、一九五三年、ワトソンとクリックといふ若い学者により「アデニン、チミン、グアニン、シトシンといふ四種類の塩基と呼ばれる物質が、デオキシリボースといふ糖とリン酸によってつながれ、全体としては螺旋状の梯子のやうな形をしたデオキシリボ核酸(略称DNA)といふもの」であり、それは、微生物を含めたすべての生物に共通した構造であること

が明らかにされた。

この事は、微生物を含めたすべての生物が、全く同じ材料により、同じ仕組によって作られてゐる、といふ事を示してゐる。と言ふ事は、「この地球上に存在するすべての生物が、皆、一つの生命体から分れ出たものである」といふ事を証明してゐることになると思ふ。とすれば、「この世に生きとし生けるものは、すべて、同一の先祖を共有する同胞である」といふ事になり、だから、「鳥の声や虫の音に耳を傾け、桜の花や梅の花に語り掛ける日本人の姿こそ、人間の在るべき姿である」と思ふわけである。